

社会福祉法人秋篠茜会

# 事業報告書

2024年度

社会福祉法人秋篠茜会

2025年5月23日

## 目次

I. 法人の概況 .....	4
II. 評議員の状況（2025年4月1日現在） .....	5
III. 理事の状況（2025年4月1日現在） .....	5
IV. 監事の状況（2025年4月1日現在） .....	5
V. 評議員選任・解任委員会の状況（2025年4月1日現在） .....	5
VI. 役員並びに評議員等の報酬総額.....	5
VII. 運営組織（組織図）（2025年4月1日現在） .....	6
VIII. 業務の適正を確保するための体制等の整備と運用状況.....	6
1. 情報保存管理体制に関する事項.....	6
2. 効率性確保体制に関する事項.....	6
3. 法令遵守体制に関する事項 .....	7
4. 雇用管理、育成・教育体制に関する事項.....	7
IX. 職員の状況 .....	8
1. 職員の配置状況.....	8
2. 職員採用・雇用管理等の状況.....	9
3. 職員配置計画の到達状況 .....	9
X. 許認可に関する事項（定款変更および指定変更） .....	9

XI. 2024年度事業の状況 .....	11
1. 事業環境と情勢認識 .....	11
2. 評議員会、理事会に関する事項 .....	12
3. 評議員選任・解任委員会に関する事項 .....	13
4. 2023年会計年度分の監事監査の状況 .....	13
5. 会計に関する専門家の活用状況 .....	13
(1) 2023年会計年度の決算往査 .....	13
(2) 2024年会計年度の上半期決算往査 .....	13
6. 所轄庁からの報告徴収・検査等への対応状況 .....	13
7. 業務の適正、サービスの確保のための教育・研修実施状況 .....	14
8. 苦情・相談内容、件数 .....	15
9. 第三者評価、運営推進会議等の開催状況 .....	15
(1) 運営推進会議開催状況 .....	15
10. 社会福祉事業の実施状況 .....	17
(1) 入所部門重点目標に対して .....	17
(2) 入所部門の事業数値目標に対して .....	17
(3) 特別養護老人ホーム .....	18
(4) ショートステイ .....	18
(4) こがねの里デイサービスセンター .....	19
(6) 小規模多機能ホームあかりの家 .....	19
(7) グループホームきたまちテラス .....	20
(8) あかね保育園（保育所） .....	20
(9) 奈良市地域子育て支援センターPeace（地域子育て支援拠点事業） .....	21
11. 公益事業の実施状況 .....	23
(1) 居宅介護支援事業（ケアプラン作成） .....	23
(2) 企業委託型保育事業 .....	23
(3) 在宅型有料老人ホーム事業 .....	24

12. 地域における公益的な取組・活動等の状況 .....	24
(1) その他活動（実習生の受け入れなど） .....	24

## 1. 法人の概況

法人の名称	社会福祉法人秋篠茜会
設立年月日	1999年9月28日
許可年月日	1999年9月22日 高奈 第343号
主たる事務所	奈良市西大寺赤田町一丁目7番1-2号
所管官庁	奈良市総務部法務ガバナンス課、奈良市福祉部（福祉政策課、保護第一・第二課、介護福祉課、長寿福祉課、福祉医療課） 奈良市子ども未来部（保育総務課、保育所・幼稚園課、子育て育成課、子育て相談課）、奈良市保健所
定款の目的	この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、秋篠茜会の理念のもとに次の社会福祉事業を行う。
定款に定める事業内容	<p>1. 社会福祉事業</p> <p>第一種社会福祉事業</p> <p>(イ) 特別養護老人ホームこがねの里の設置経営</p> <p>第二種社会福祉事業</p> <p>(イ) 老人デイサービスセンター「こがねの里デイサービスセンター」の設置経営</p> <p>(ロ) 老人短期入所事業（こがねの里）</p> <p>(ハ) あかね保育園の設置経営</p> <p>(ニ) 小規模多機能型居宅介護「小規模多機能ホームあかりの家」の設置経営</p> <p>(ホ) 地域子育て支援拠点事業「奈良市地域子育て支援センター「Peace」」の受託経営</p> <p>(ヘ) 認知症対応型老人共同生活援助事業「グループホームきたまちテラス」の設置経営</p> <p>2. 公益事業</p> <p>居宅介護支援事業</p> <p>企業委託型保育サービス事業</p> <p>有料老人ホーム事業</p> <p>3. 収益事業</p> <p>(1) 不動産貸付業</p>

II. 評議員の状況（2025年4月1日現在）

評議員の定員	7名以上17名以下		
評議員の現員	14名		

III. 理事の状況（2025年4月1日現在）

理事の定員	6名以上14名以内		
	常勤	非常勤	合計
理事の現員	4人	6人	10人

IV. 監事の状況（2025年4月1日現在）

監事の定員	2名
監事の現員	2名

V. 評議員選任・解任委員会の状況（2025年4月1日現在）

委員の定数	3名
委員の現員	3名（外部委員1名、監事1名、事務局員1名）

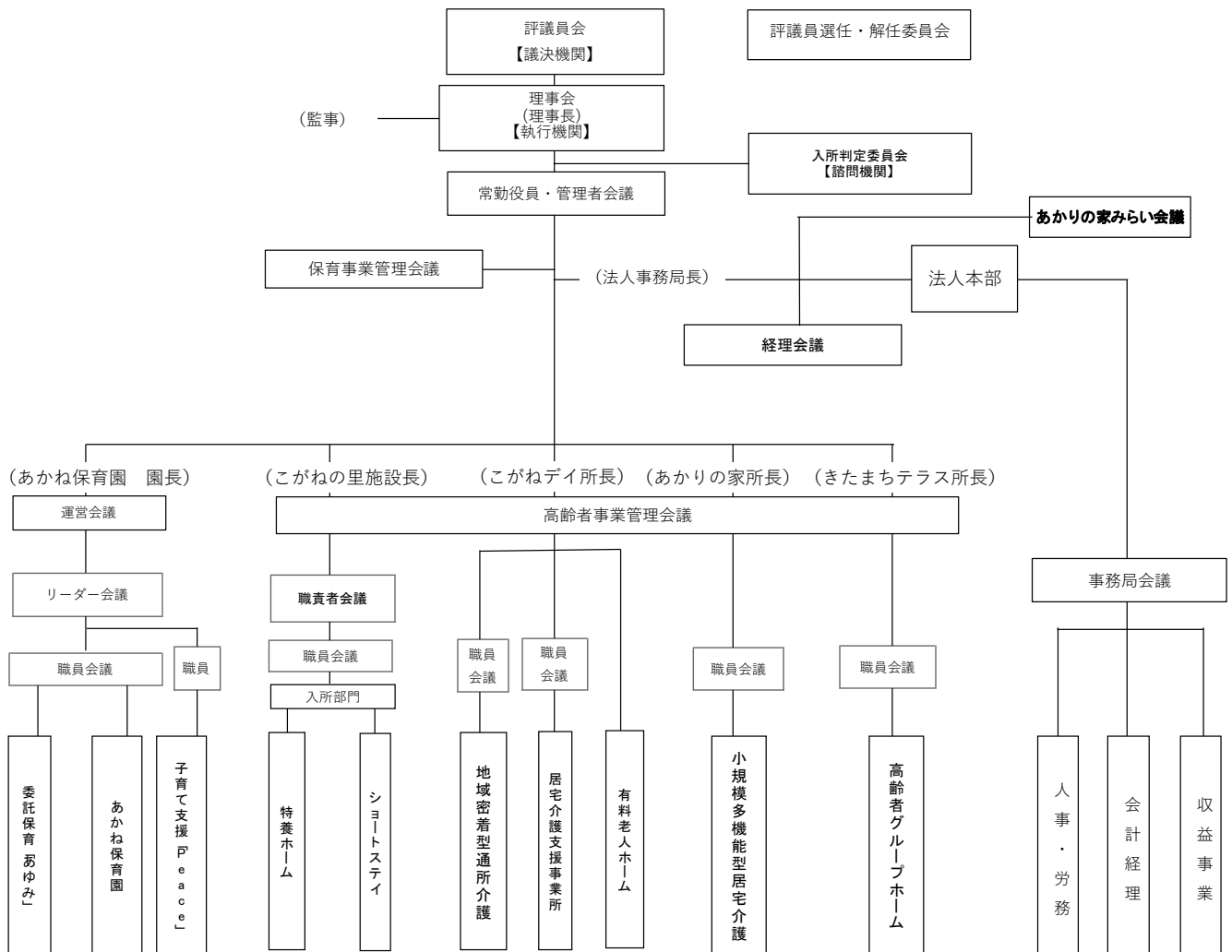
VI. 役員並びに評議員等の報酬総額

区分	支給人数	報酬等の総額	適用
評議員	11人	53千円	
理事	11人	29,258千円	職員給与支給を含む
監事	3人	91千円	
報酬等総額	24人	29,403千円	

※報酬等の総額は端数処理により各区分の合計と一致しない。

※支給人数は、実支給人数のため支給人数の合計と一致しない。

VII. 運営組織（組織図）（2025年4月1日現在）



VIII. 業務の適正を確保するための体制等の整備と運用状況

1. 情報保存管理体制に関する事項

評議員会および理事会議事録など法定文書、重要な職務執行に係る記録および文書は法令および法人諸規程の定めに従い適切な管理に努めています。

2. 効率性確保体制に関する事項

評議員会は、2024年度定時評議員会では決算報告等の承認と役員体制等の補強のため理事および監事の選任を行ったほか、デイサービスセンター移転に伴う定款変更をみなし決議で行いました。

理事会は引き続きビデオ通話システムを用いて開催をしました。事業所の再編等により定款変更を評議員会に諮ったほか、補正予算を編成しました。第13期第6回理事会では、育児休業等の労働法制改正に伴う諸規程の一部改正を決議したほか、管理監督者の世代交代に伴い、副園長を選任しました。常勤役員・管理者会議は、8月から、法人本部・事務局長の配置により構成員9名となりましたが、常勤役員・管理者の任免により8名体制となっています。

### 3. 法令遵守体制に関する事項

法令遵守意識の徹底を図るため定期的に教育を実施しています。新入職員研修・教育では個人情報保護やプライバシー保護に関する事項を継続して研修・教育として実施しています。

年代別研修や各事業所においては、職員の行動規範となる「職員教科書」を学習・研修にとりいれ周知徹底を図っています。

### 4. 雇用管理、育成・教育体制に関する事項

雇用管理の強化を引き続き進めました。雇用・勤怠等管理について2023年度から導入したICT活用により、バックオフィス業務の業務効率化が進み、時間外労働の大幅な削減につながっています。

法人に設置する教育研修委員会や各事業所に設置する機能別・分野別委員会で研修計画を策定し実施しました。開催のしやすさもあり、Online研修が定着しつつありますが、集合研修の優位性もあり可能なものは集合形式での開催に努めました。

## IX. 職員の状況

### 1. 職員の配置状況

拠点・サービス区分			正規 職員	非正規 職員	常勤 換算数	平均 年齢	平均 勤続
法人		4/1現在	72 人	90 人	133.9 名	49.7 歳	8.2 年
		前年差異	+1	-8	+5.8	+0.8	
こ が ね	本部	4/1現在	2 人	0 人	2.0 名	48.7 歳	7.3 年
		前年差異	+2		+2.0		
こ が ね	入所	4/1現在	38 人	36 人	64.7 名	48.4 歳	8.0 年
		前年差異	+1	+1	+5.2	+0.7	
こ が ね デ イ	地域密着通所	4/1現在	3 人	11 人	9.0 名	56.9 歳	7.8 年
		前年差異	-1		+0.2	+1.9	
こ が ね デ イ	居宅介護支援	4/1現在	3 人	1 人	3.8 名	56.6 歳	17.3 年
		前年差異			+0.0	+1.0	
小規模多機能		4/1現在	5 人	6 人	8.7 名	58.3 歳	10.3 年
		前年差異			+1.2	+0.5	
グループホーム		4/1現在	5 人	10 人	11.9 名	52.2 歳	4.6 年
		前年差異	+1	-6	-0.4	+3.6	
有料老人ホーム		4/1現在	0 人	2 人	0.1 名	59.5 歳	2.3 年
		前年差異				+1.0	
あ か ね	保育所	4/1現在	15 人	17 人	28.8 名	43.5 歳	9.5 年
		前年差異	-2	-2	-1.0	+0.7	
あ か ね	子育て広場	4/1現在	0 人	6 人	2.9 名	51.8 歳	7.1 年
		前年差異			-0.4	+1.0	
企業委託保育		4/1現在	1 人	1 人	2.0 名	54.0 歳	14.4 年
		前年差異		-1	-1.0	-8.6	

※非正規職員には出向派遣職員含む。

※端数処理により各部門内訳の計又は平均と法人合計又は平均が一致しない場合がある。

## 2. 職員採用・雇用管理等の状況

年度	採用者数			退職者数			採用率	離職率	増減率
	正規	非正規		正規	非正規				
2024年度	27	13	14	38	10	28	16%	22%	-6%
前年度	40	7	33	51	14	37	21%	28%	-7%
前年との差	-13	6	-19	-13	-4	-9	-5%	-5%	0%

職員採用数（直接雇用）は27名（正規13名、非正規14名）、採用率は16%でした。

離職者数は38名（正規職員10名、非正規職員28名）、離職率22%でした。離職者の半数は一年以内での退職でリアリティギャップの課題があります。

年次有給休暇の平均付与日数14.1日（前年14.5日）に対し、平均取得日数9.6日（前年11.4日）で取得率67.7%（前年78.8%）でした。2024年6月1日現在の障がい者雇用の実雇用率は4.72%（前年5.26%）でした。

## 3. 職員配置計画の到達状況

2024年度の月平均常勤換算職員数は、計画150.0名に対し、実績（派遣職員除く）127.5名（増減△22.6名）となりました。介護職員の計画差△9.6名（計画比86.4%）、次いで保育士の△5.5名（計画比82.7%）と事業活動の中心を担う職種の体制は前年からも後退となっています。

人材紹介業者経由の採用を増やしたことで、正規職員は全体として増加したものの、非正規職員の離職者が同入職者の2倍となったことも影響しました。直接雇用だけでは、地域要求に応じることが困難な事業所は、派遣職員を確保するなど対応しましたが、確保が難しい状況が続いています。

リアリティギャップの解消を目的に、今年度は、過去採用実績がなかった日々雇用者の採用なども行い対応しました。そのようななか、旧制度にもとづく技能実習生をあらたに2名（2024年9月）受入れ、第1期生と併せ4名が実習を行っています。

## X. 許認可に関する事項（定款変更および指定変更）

区分	許認可年月日	指令書番号	主な内容
定款変更 (届出)	2024年9月4日	—	「こがねの里デイサービスセンター」 移転に伴う基本財産の追加

異動区分	異動年月日	事業区分	異動項目
新規	2024年4月1日	介護老人福祉施設、短期入所、地域密着通所介護、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護	高齢者虐待防止措置（基準型）

異動区分	異動年月日	事業区分	異動項目
新規	2024年4月1日	介護老人福祉施設、短期入所、地域密着通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護	業務継続計画策定（基準型）
新規	2024年4月1日	短期入所	看取り連携体制加算
変更	2024年6月1日	小規模多機能型居宅介護	サービス提供体制強化加算Ⅱ→Ⅰ
変更	2024年10月1日	地域密着型通所介護	管理者および所在地
停止	2025年3月1日	認知症対応型共同生活介護	医療連携体制加算Ⅰ 協力医療機関連携体制加算Ⅰ
新規	2025年4月1日	居宅介護支援	業務継続計画策定（基準型）
新規	2025年4月1日	介護老人福祉施設、短期入所、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護	身体拘束廃止措置（基準型）

## XI. 2024年度事業の状況

### 1. 事業環境と情勢認識

核兵器のない世界の実現をめざす被爆者の努力と証言をつうじて核兵器廃絶の運動に貢献した日本原水爆被害者団体協議会に、2024年12月10日ノーベル平和賞が授与されました。日本国憲法の理念に沿って、基本的人権を何より大切にすることをめざす秋篠茜会は、今回の授与を心から歓迎いたします。また、2024年7月3日「旧優性保護法の違憲判決」や選択的夫婦別姓制度導入に向けた動きが進みつつあります。今後、日本国憲法が保障する基本的人権を侵害するような立法ならびに行為を決して許さない取り組みを広げていくことが重要です。

2024年1月1日に発生した未曾有の大地震「能登半島地震」から一年が経過しました。復旧・復興途中の2024年9月の豪雨災害にも見舞われるなか災害関連死の認定が増え続け、直接死を超える状況です。そのほとんどが70歳以上となっていることは、①地震によるショック、②インフラ途絶による負担増大に次いで、介護施設の機能低下が指摘されています。災害対策は高齢者の安全と生命を守るために不可欠であり、多岐にわたる対策を講じることが求められます。

福祉事業を担う職員の確保と育成は事業活動の「要」です。介護保険創設以来はじめて介護職員数が前年を下回りました（▲2.9万人、▲1.3%減）（2023年度厚生労働省公表「介護サービス施設・事業所調査」）。奈良県においても2040年の介護職員減少数（2022年度）は全国ワースト4位（2022年度比の常勤換算数▲23.4%）と見込まれるなか介護分野の求人倍率5.6倍（東京都に次ぐ第2位）からも全国的にも突出した深刻さといえます。総人口の減少が回避できないなか、就業構造・産業構造への転換を含めた新たな社会ビジョンをつくり上げることが望まれるとともに、人手不足を食い止めるべく、起動的に対応していくことが求められます。

とりわけ、①訴求力の向上、②キャリアパスの明確と教育体制（内容含む）の充実、③継続的な処遇改善と職場風土のアップデートは重点的に取り組むべき課題です。

2024年介護報酬改定は1.59%のプラス改定はとなりましたが、ヘルパー不足で事業の存続すら危惧される訪問介護の本体報酬の約2.24%引き下げには、怒りの声が広がりました。「訪問介護の基本報酬の見直し等を求める意見書」は、2025年3月末までに285自治体に及びます。

児童・保育分野では、切実な不安と現場の実態を示し改善を求めてきた1歳児（6：1→5：1）の職員配置基準の見直しは、3要件（処遇改善加算の算定、ICTの活用、平均経験年数10年以上）を満たした施設だけの加算方式となりました。条件付の改善ではなく最低基準としての実現が望まれます。

そのようななか「貧困と格差、超高齢社会に立ち向かう無差別平等の介護」「安全、倫理、共同の営みを軸とした総合的な介護の質の向上」を強化・深化させ、基本的人権や生存権を守り、法人理念の実現、各施設事業の宣言・目標実現を重視した福祉実践が求められています。

切実さを増す地域の福祉ニーズを、ソーシャルアクションの力量を高めながらしっかりと受け止め、地域の関係機関との連携・協働で真価を発揮し、地域の期待に応える福祉の拠点として役割を大いに果たしていきましょう。

## 2. 評議員会、理事会に関する事項

開催回数開催内容	開催又は決議の年月日	出席者数			主な決議・承認事項
		評議員	理事	監事	
第11期評議員会 (みなし決議)	2024.6.30	14	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度決算報告の承認</li> <li>・2023年度監査報告</li> <li>・デイサービスセンター移転に伴う基本財産取得による定款変更</li> <li>・監事の退任</li> <li>・監事の選任</li> <li>・理事の選任</li> <li>・理事の退任</li> </ul>
第11期2024年度 臨時評議員会	2025.3.29	10	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度の理事報酬総額について</li> <li>・2025年度の監事報酬総額について</li> </ul>

開催回数開催内容	開催又は決議の年月日	出席者数			主な決議・承認事項
		理事	監事	他	
第13期 第4回理事会	2024.5.24	9	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度の事業報告承認</li> <li>・2023年度の決算報告承認</li> <li>・2023会計年度にかかる監事監査報告</li> <li>・改修工事指名競争入札の件</li> <li>・デイサービスセンター意見に伴う基本財産取得による定款変更</li> <li>・2024年度夏季期末勤勉手当支給基準の決定</li> <li>・重要な役割を担う職員の選任</li> <li>・監事の解任を定時評議員会に提案する件</li> <li>・監事の選任を定時評議員会に提案する件</li> <li>・理事の選任を定時評議員会に提案する件</li> <li>・理事の退任を定時評議員会に提案する件</li> <li>・2023会計年度の定時評議員会目的事項の決定</li> </ul>
第13期 第5回理事会	2024.11.15	8	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度第一次補正予算編成の件</li> <li>・2024年度冬季期末勤勉手当・年度末一</li> </ul>

開催回数開催内容	開催又は決議の年月日	出席者数			主な決議・承認事項
		理事	監事	他	
					時金支給基準決定の件 ・重要な役割を担う職員の任免
第13期 第6回理事会	2025.3.14	8	2	-	・2025年度事業計画、2025年度収支予算の承認 ・就業規則等諸規程の一部改正 ・重要な役割を担う職員の選任 4. 2025年春闘要求への回答について 5. 2024年度の臨時評議員会の目的事項の決定

### 3. 評議員選任・解任委員会に関する事項

開催回数開催内容	開催年月日	出席者数		主な報告事項および決議事項
		委員	理事	
開催なし				

### 4. 2023年会計年度分の監事監査の状況

- 監査日時 2024年5月16日
- 監査人 池田裕子、城孝至
- 改善事項 なし

### 5. 会計に関する専門家の活用状況

#### (1) 2023年会計年度の決算往査

- 監査日時 2024年5月26日
- 監査人 公認会計士 田中淑寛（協働公認会計士協働事務所）

#### (2) 2024年会計年度の上半期決算往査

- 監査日時 2024年11月29日（Web）
- 監査人 公認会計士 田中淑寛（協働公認会計士協働事務所）

### 6. 所轄庁からの報告徴収・検査等への対応状況

内容	日時	対象	要改善指摘事項	対応状況
社会福祉施設に対する 指導監査	2024.11.7	保育所	指摘事項なし	—
介護保険施設等サービ	2025.3.30	介護保険全事業	—	—

内容	日時	対象	要改善指摘事項	対応状況
ス事業者等の集団指導				

## 7. 業務の適正、サービスの確保のための教育・研修実施状況

研修内容	開催年月日	参加数	備 考
新入職員研修	2024.4.1	7名	Online
新入職員研修	2024.10.1	11名	Online
三年目職員研修	2023.8.30	5名	法人理念・方針講義、「話の聴き方、相談援助技術、接遇・マナー」、グループワーク、職員教科書
五年目職員研修	2024.12.17	8名	法人理念・方針講義、「心理的安全性が高い職場を目指して」、「五年目の職員に求められる専門性と技術」、グループワーク
十年目職員研修	2025.1.30	7名	「ファシリテーションの基本を学ぶ」「フレームワークを活用した政策立案」
職責者研修（第1回）	2024.7.26	17名	「信頼と安心につながるマナー&コミュニケーション研修」（講師 浅尾京子氏（日本リレーション株式会社代表））
職責者研修（追加）	2024.10.23	5名	「基本ビジネスマナー講座」
職責者研修（第2回）	2024.11.19	23名	2024年度事業上半期総括と課題への討議
職責者研修（第3回）	2024.2.10	19名	「法人理念を伝えるために」「福祉人材を取り巻く情勢と法人の状況」
全職員研修会議	2025.3.18	—	2025年度事業計画・収支予算、永年勤続表彰

## 8. 苦情・相談内容、件数

第三者委員の助言と立会いを要する申出・事例はありませんでした。苦情・相談件数は25件（前年24件）で前年と同数でした。申出の多くはご本人またはご家族を通じた申出が全体の76%（前年75%）を占めています。

3年間にわたるコロナ禍の対応で、利用者・家族との直接のコミュニケーションを意図的に控えてきた経過もあってかサービスの内容十分な説明・情報提供4件の声が寄せられました。前年の半数にまで減りましたが、細やかな配慮で改善できる内容も多くありました。

サービス内容に関する内容は9件と全体に占める割合はもっとも多い状況です。利用料は増加傾向にあり、費用に見合ったケアを求める声も寄せられています。法人理念「人間尊重の立場にたった保育および介護の実践」にもとづき、利用者・家族が「大切にされている」と感じられる実践が引き続き求められます。

事業所	申出者					申出・苦情の内容							
	本人	保護者・家族	事業者等	地域住民	投書	サービス内容	職員の接遇	利用料	説明・情報提供	施設管理	被害・損害	権利侵害	その他
こがねの里		9			1	3	1		4	1			1
あかね保育園													
こがねの里デイ	1	1	2			1	2				1		
あかりの家	1	2		1		2	1						1
きたまちテラス	1	4	2			3	1	3					
<b>計</b>	<b>3</b>	<b>16</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>1</b>		<b>2</b>

## 9. 第三者評価、運営推進会議等の開催状況

### (1) 運営推進会議開催状況

開催内容		日時	出席者数		議題・要望・意見	措置状況
事業所	回数		外部	事業		
こがねの里 デイサービスセンター	2024年度 第1回	2024.6.27	3	4	・運営状況 ・大規模災害訓練の実施報告 ・介護事故発生の要因分析について ・事業所移転に伴う要望等の徴取	・移転PJで意見・要望検討
こがねの里 デイサービス	2024年度 第2回	2024.12.13	2	1	・運営状況 ・地域へのアウントリー	

開催内容		日時	出席者数		議題・要望・意見	措置状況
事業所	回数		外部	事業		
センター					チ活動	
小規模多機能型居宅介護	2024年度 第1回	2024.5.22	3	2	・地域代表の委員の強化 ・非常時対応の点検 ・近隣小学校諸行事への参加	・非常階段等の整理整頓 ・地域諸行事への参加確認
小規模多機能型居宅介護	2024年度 第2回	2024.7.24	2	2	・多職種連携研修への参加 ・地域活動団体への参加	・地域団体の取組みや研修の参加と共有
小規模多機能型居宅介護	2024年度 第3回	2024.9.25	2	2	・利用状況と看取り対応 ・熱中症予防調査実施の報告	・宿泊サービス等の飽和の状況報告
小規模多機能型居宅介護	2024年度 第4回	2024.11.27	2	2	・敬老会等諸行事の報告 ・認知症フォーラムへの参加促進 ・今後の諸行事等報告	・研修会への積極的参加
小規模多機能型居宅介護	2024年度 第5回	2025.1.22	3	2	・諸行事の充実についての評価 ・柔軟な食事提供時間の要望	・ご本人や他の利用者の状況踏まえ対応を行っている
小規模多機能型居宅介護	2024年度 第6回	2025.3.26	3	2	・利用者の状況に合わせた食事形態の提供の評価 ・COVID19の発生状況の報告 ・自己評価、事業所自己評価の説明	・自己評価、事業所自己評価への意見踏まえ次回に確認
認知症対応型共同生活介護	2024年度 第1回	2024.5.18	2	3	・運営状況報告 ・政府補助金と利用料への対応 ・機器を活用した更なる安全対策の確保	
認知症対応型共同生活介護	2024年度 第2回	2024.7.12	2	4	・運営状況報告 ・職員の定着に関する事項 ・地域記念行事の参加要請	記念行事への参加

開催内容		日時	出席者数		議題・要望・意見	措置状況
事業所	回数		外部	事業		
認知症対応型共同生活介護	2024年度 第3回	2024.9.28	2	3	・運営状況報告 ・利用者の生活状況への評価 ・物価（米）上昇への対応状況 ・担い手不足（地域）への意見交換	・知り合い等つながり活用
認知症対応型共同生活介護	2024年度 第4回	2024.11.28	3	3	・運営状況報告 ・物価（米）上昇への対応状況 ・地域行事の実施報告 ・リスクマネジメントの対応	
認知症対応型共同生活介護	2024年度 第5回	2025.1.25	2	3	・運営状況報告 ・利用者等家族に向けた情報発信への評価	
認知症対応型共同生活介護	2024年度 第6回	2025.3.27 (延期)				感染症拡大に伴う

## 10. 社会福祉事業の実施状況

### (1) 入所部門重点目標に対して

第一四半期に体制上の課題から待機者管理業務が滞りましたが、第二四半期以降は改善する事ができました。空床となった居室は入所部門としてどうすれば早期に活用できるかという点から考える事で、コントロールできる範囲を把握して受け入れました。

家族に本人の状態報告等を積極的に行い、生活面での楽しみや嗜好等を聞き取り、ケアにつなげるようにしました。8月以降、外部の来訪における制限を大きく緩和した事もあり、コロナ以前ほどのではありませんが、家族と一緒に時間を過ごすという「普通」の機会を保障する事ができました。感染症クラスターは3回ありましたが、感染症対策は軽視せず、ニーズに応えるよう対応しました。

平和会合同での大規模災害訓練や医療介護安全大会といった外部研修を法定研修の一機会として参加を促し、内部研修だけでは学べない事を学ぶ機会となりました。

### (2) 入所部門の事業数値目標に対して

- 特養は、一日平均利用者数85.1名目標に対し、実績81.4名
- ショートは、一日平均利用者数18.3名目標に対し、実績18.0名

### (3) 特別養護老人ホーム

新規入所者34名（前年差+4名）、退所者32名（前年差+3名）でした。特養に対するニーズの高さは変わらず、早期の入所希望からショートステイを利用しての入所待機しているケースは月10件程度を維持しています。退所者の多くは死亡退所（22名）でした。特徴的な事例として、認定更新で要介護2となり特例入所非該当で退所となったケース、既往による病状悪化の対応ができず他施設へ移ったケースがありました。癌末期のケースも複数あり、協力医療機関の協力を得ながら最期まで支援できました。ただ、夜間の疼痛に対する対応等、一概に対応するには難しい課題もあり、個々に検討が必要です。

入院者延日数は1762日（前年差+508日）と大幅に増加しました。入院疾患は尿路感染症と肺炎が多くを占めますが、加齢や認知症の進行から食事摂取が困難となり入院するケースも多くなっています。就寝前の水分促しや清潔保持を日課に位置付ける等の予防対策の徹底と、どうすれば本人に合ったケアや家族の意向に沿った支援を行えるか考え実践する力が求められています。

外部機関に講師依頼し、口腔ケアや疼痛緩和、トロミ剤の学習会を行い、改めて正しい知識を身につけ、日々のケアに活かす事ができました。9月には新たに2名の技能実習生を受け入れ、計4名となりました。正しい知識や技術や接遇等を伝えるとともに、技能実習生だけでなくどの職員もが意欲的に介護に携わる事ができるような職場作りを模索し、次年度からフロアごとの業務改善委員会を発足する事としました。

認知症や現病による周辺症状から、危険性を予測できても安全性を確保できないケースが複数あり、本人への働きかけと同時に家族へリスクを説明し理解を求めたケースや身体拘束を行わざるを得ないケースもありました。

吉田病院との連携では、複数の会議を定期的で開催し継続できています。また、入院者の状態だけでなく、双方の状況確認や制度対応への検討を行う事ができました。

### (4) ショートステイ

前年度末に発生したコロナクラスターにより4月前半は入所受け入れを中止せざるを得ない状況から、大幅な計画未達成となり、年間を通して大きく影響を及ぼしました。その後は単月での変動はあるものの、近隣事業所の事業縮小の影響や介護者の不在等による緊急利用といったニーズに応えましたが、冬季に入院や入所による停止が多く計画との乖離が広がり、年間を通して目標にわずかに到達する事ができませんでした。2月以降は、緊急利用のニーズが高まり目標に近い受入となりましたが、継続した利用には至りませんでした。

新規利用者は年間を通して50名（前年度79名）であり、継続的な利用につながるよう積極的な日程提案やキャンセル待ちの対応等を迅速に行いました。また、柔軟な空床利用の活用も行えるよう、部門内での連携を強めました。

特養待機を目的とした長期間のショート利用のニーズは継続しており、常時10名前後の利用が継続しています。一方で、定期的な利用ニーズの多くは約3日程度、月に一回だけや週末利用のニ

ーズも継続して高く、どう応えるかを起点に検討し、ほぼ希望日程通りに応えられています。

利用中に、利用者が安心して過ごせる為の居室設定やボランティアの方々の協力を経て余暇活動への取り組みも行いました。

#### (4) こがねの里デイサービスセンター

重点目標の通所事業の移転においては、計画よりも大幅に遅れ10月1日からの営業開始となりました。浴室改修工事の設計変更等により7月に工事着工し9月下旬引き渡しを受けました。6月から「デイ検討会議」を再開し、運営面や移転における準備等検討を進め、運営援助目標を具体的に実践するために職場会議で検討・試行してきました。並行して他事業所の見学の機会を得て、レクリエーション提供技術などを学ぶことができました。

移転後は、利用者の混乱はさほどありませんでしたが、浴室までの移動や食事の盛り付けなど慣れない業務に職員体制や業務分担など試行錯誤しながら徐々にスムーズに実施できるようになりました。広いデイルームをエリア分けしレクリエーション・行事企画・機能訓練などのプログラムの充実を図りました。機能訓練のアイテムが増えたことで、利用者の機能訓練への意欲を目の当たりにし、障害の程度に関わらず、身体機能維持への思いに改めて触れご支援しています。その他歌の催しや将棋・囲碁クラブなど外部からボランティアさんの受入れを再開しました。行事など月3本以上企画し事前に利用者・家族、ケアマネージャーへ予定表を配布しました。

利用者動向は、下半期入院や停止者の増加が顕著でした。新規利用者の受入れを強化しましたが、目標の日平均15.5人に到達できませんでした。入院やショートステイを利用される利用者が複数ある中、見据えた登録者数を一定数確保できなかったことや新規利用者への案内活動のタイミングも状況予測した動きがとれていなかったこともあったと思われます。一方小規模デイの特性や機能訓練の提供にて認知症高齢者や男性利用者が増加傾向にあります。少しずつですが案内活動や日頃の実践の成果が出てきたと考えます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新規	6	0	1	1	3	2	5	5	0	2	3	4	33
再開	0	2	1	3	1	2	0	2	1	0	0	2	14
入院	0	4	2	2	3	0	2	1	3	1	7	3	28
停止	1	3	1	2	2	2	2	2	3	4	4	4	30
実人数	58	60	53	56	53	56	60	64	62	60	60	59	58.4
一日あたりの平均利用者数	14.5	14.4	13.7	13.3	13.6	14.1	14.3	15.8	15.8	14.8	13.5	15.2	14.5

#### (6) 小規模多機能ホームあかりの家

登録利用者、月15名（年間180件）を目標にしましたが、平均13.8名（年間165件）と目標に到達できませんでした。登録利用者の身体的状態が安定せず、入院を繰り返される利用者が複数名いました。積極的な治療を希望されず、医療機関の協力も得て家族と共に事業所で看取りケアをしたケースもありました。依然、宿泊サービスを中心に利用希望される登録利用者も多く、

宿泊定員8室の内5～6室が常に稼働している状況でした。宿泊サービスを継続し自宅で過ごすことが難しくなってきた登録者には、ご本人、ご家族の意向を確認しながら法人内の他事業所と連携を取りより安心して過ごせるような環境について検討していかなければならないと考えます。

小規模多機能型居宅介護の機能を活かした事業運営をしていくために、法人内他事業所との連携の在り方を検討する会議を行いました。中長期計画の具体化を進めるとともに事業所のめざすべき姿を確認しました。

利用者担当制を活かし、登録利用者の「～したい」の実現に努めました。食や外出に対する希望が多い傾向です。通いサービス以外で外出する頻度も少ない登録者も多く気候のいい時期は、近隣の公園への散歩やお祭りへの参加等利用者の要望に合わせて外出企画にも取り組みました。

運営推進会議は2か月に1回定期的に開催しました。事業所の活動内容を報告するとともに外部評価も行っていただき、運営の改善に努めました。長年運営推進委員を担っていただいた方の死去もあり、新たに委員を担っていただける方の検討が必要となっています。

上半期は職員体制が整わず研修等十分に行えませんでした。下半期にかけて職員体制が整い外部研修にも複数参加が出来ました。備品の管理や使用方法等で登録利用者、ご家族にご迷惑をかける事案が発生しました。外部研修だけではなく事業所内での研修にも引き続き取り組み、職員共通の認識となる様にしていきたいと思えます。

## (7) グループホームきたまちテラス

日平均利用者数17.1名を目標としていましたが、17.9名と大幅に超過達成する事ができました。入院は年間6名45日間と日頃のきめ細やかな体調管理とケアで安定的に過ごしてもらうことができました。また入院しても短期間で退院につながることで施設療養を早期にスタートさせ、診療所のサポートを受けて、馴染みの生活環境の中でADLを戻す支援を行いました。

退去は5名。退去理由としてはADL低下で浴槽の出入りが難しくなり、機械浴設備のある施設を希望されたことです。

入居申し込みや見学は今年度も月平均3.4件ペースで希望があり、待機の方々にはこまめな現況調査で意向確認を行い、コミュニケーションを図ることでスムーズな入居につなげることができました(空室日数年間9日間)

入居されている方々は認知症があっても役割を持って、また地域に出る機会を持ちながら安定して暮らしておられます。一方で新たに入居される方々は入居時から生活全般に介護が必要な方が多く、手厚い介護を希望されるご家族のニーズが伺えます。

前年度に引き続き職員体制は厳しく、特に下半期急速に悪化する中、コロナ感染が発生しました。感染対策後の感染者はなく感染者5名(うち入居者3名)、10日間の療養を経て収束しました。体制悪化を機に無理・無駄・ムラを省いて業務を見直しました。また年度中にきたまち福祉宣言を策定することができました。来年度はより具体的に実践に結び付けていきます。

## (8) あかね保育園(保育所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年度 増減	+4	+4	+2	+1	+3	+4	+1	+0	+0	+2	+0	+0
0歳児	4	8	10	11	14	18	19	19	19	21	21	21
全園児	122	125	128	129	132	136	137	137	137	137	137	137
2024年度 増減	+6	+3	+2	+1	+1	+4	+2	+2	+0	+0	+0	+0
0歳児	6	9	11	12	13	17	19	21	21	21	21	21
全園児	124	126	129	130	131	134	136	138	137	138	137	137

0歳児の受け入れについては、11月までに21人を受け入れることができましたが、1～3月については12月で申し込みが終了し調整があるため、職員体制が不安定な中タイミングが難しく受け入れを行うことができませんでした。しかし、月平均で16人となり前年度の15.4人を少し上回りました。

今年度も産・育休や、病休が重なり厳しい体制でしたが派遣職員2名、また、ハローワーク等で応募があり4月、6月、10月、12月に1名ずつ保育士を採用することができました。

保育運営面では、今年度も3・4・5歳児の異年齢3人組のグループでの活動も大切にしながら、全園児がクラスを超えてリズム遊びや体育遊びなどで交流を深めてきました。昨年度は保育中の行事として3～5歳児で取り組んだ『こどもまつり』でしたが、保護者の要望もあり今年度は2～5歳児を対象に保護者と参加できる行事としました。おみこしのオープニングにはじまり盆踊りも楽しみました。また、年齢に合わなくなった絵本を自宅から持ち寄り、絵本の交換会を企画し喜ばれました。

園児及び保護者支援では日頃からコミュニケーションをとり、気軽に相談できるよう信頼関係づくりを大切にしました。特に成長発達についての悩みや相談については繰り返し面談を行い保護者と共に考え、奈良市の関係機関とも相談、連携し、就学に向けても各小学校や教育相談課へ保護者と一緒に見学相談に行き、支援を行いました。

職員の資質向上の取り組みでは、職員が個々にさまざまな分野のキャリアアップ研修を受講しました。

体育遊びや発達についても例年通り講師の先生をお招きし職員全体で学びを深めることができ、保育の質の向上につながりました。2023年度に完成した『保育の10の基本プラス1』を基に一人一人が、また職員同士で保育を語り振り返る機会を持ちました。今後も取り組みたいと思います。

施設・環境整備では送迎用駐輪場のライトを、保護者会で新しいものに取り換えていただきました。また、園の前の道路が暗く検討していたところ、保護者に助言をいただき、奈良市道路維持課に相談しました。その結果街灯を照度の高いものに取り換えていただくことができました。

昨年度より準備を進めていたガス式エアコンの取り換え工事は夏前に終わることができました。

## (9) 奈良市地域子育て支援センターPeace (地域子育て支援拠点事業)

### i) 2024年4月～2025年3月の月別利用状況

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者総数	434	344	450	437	438	451	486	438	442	407	484	533	5,344
子ども	234	174	237	225	226	239	250	230	235	211	254	277	2,515
保護者	200	170	213	212	212	212	236	208	207	196	230	256	2,552
開所日数	21	21	20	21	21	19	22	20	20	19	18	20	242
										1日平均人数	22.1	21.3	

日々運営していると、それほど多くの利用はないように思っていました。年間利用人数を出して比べてみると、利用制限が無くなった頃から、少しずつ利用者が増えてきているのがわかりました。1歳を過ぎた辺りから、週に何回も利用されるようになる傾向があり、会う回数が増えるとスタッフとの信頼関係も深まりました。

## ii) 子育て支援に関する講習の実施

講習は、月に2回に加え、「えほんひろば」「プレママ・プレパパのための見学会」「園庭開放（真夏・真冬を除く）」を実施しています。スタッフの手が足りない時は、奈良市子育ておうえん隊の派遣依頼をし、手伝ってもらいました。試食付きの離乳食講座、戸外での運動会、園庭開放など、他の広場では実施されない講座もあり、利用者に喜ばれています。出張講座は、出向く子育てスポットが増え、「子育て広場1. 2. 3」にも行かせていただきました。「プレママ・プレパパのための見学会」は、1年間で2組の参加しかありませんでしたが、2組共、出産後遊びに来てくれています。

あやめ池地域で活動されているお年寄りのオカリナサークルの方々、佐保短期大学の教員、学生、卒業生からなる音楽活動などをされているユニットとも繋がり、ボランティアで演奏会を開いてもらいました。Peaceを卒業されたママにも英語遊びの講座もしていただきました。外部の方々とは新たな繋がりを持たせた1年でした。

## iii) 一時預かり「ひよこルーム」

一時預かりの利用は、5月は4人と極端に少なかったのですが、7月、2月は20人を超え、その他の月も10人以上は利用があり、安心してお子さんを任せてもらっている様子が窺えました。2月、3月は予約が多く、段階を踏んで預かり時間を伸ばしてもらうのが難しく、一度練習をしたら、本番の日を迎えてもらうという形を取り、出来るだけ利用したい方の希望に応えるようにしました。

## iv) 子育てコーディネーター事業（利用者支援事業）

第2子を短時間、自宅に一人残して外出していると母から聞き、フォローが必要と判断して市に繋げ、子どもセンターや利用歴がある他の子育て広場と連携して、見守りました。Peaceへは講座の参加での利用が主でしたので、その親子の様子を見守る為、定員満員になっていても参加を受け入れたり、第2子も連れて参加できるようにスタッフが一人多く出勤する等して対応しました。

他の支援しているケースは、発達に遅れがある子のフォローや双子育児で大変な母のフォロー等があります。フォローをしている親子が遊びに来られたら、寄り添い、傾聴し、その様子を記録に

残しスタッフ間で共有しています。昨秋には、西大寺北小学校での50周年イベントでの授乳室の見守りもし、地域のお手伝いをすることが出来ました。

## 11. 公益事業の実施状況

### (1) 居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

2024年度の新規依頼は48件と前年の約3割増し、紹介元は圏域包括（20件）と家族など利用者からの紹介（11件）が中心ですが、入院中の病院や地元の開業医など医療機関から直接照会（6件）が入るようになりました。上半期は同一拠点の通所が営業停止しており、利用者ニーズは居宅を持たない他事業所の利用希望者に変化し、現在もその傾向が継続しています。

平均管理期間は3年3ヶ月、停止は年間33件と短期に終結する件数の増加傾向が顕著です。当初から介護者が在宅生活を支えきれず施設探しを希望したり、訴えの多い事例に手がとられ末期癌など急ぎの初動が後手になるなど、地域包括で支援介入のための情報整理に手が回らない印象です。一方5年以上の管理期間を経て終結したケースでは、終末期対応や施設入所の際も長年の関係性から本人家族の意向を踏まえた選定につながり易いと感じられます。

管理目標月148件に対し平均146.2件の到達となりました。年度当初は報酬改定もあり営業が不十分で5.6月の件数落ち込みが著しく、7月からは認定調査受託を再開しました。認定調査を受託したことで担当の利用者が振り戻しとなり、状態像を適切に介護度に反映させることができています。コロナ禍での臨時取扱いが終了する中、今年度は認定更新が集中し業務量が急激に増加しました。利用者は80歳代が50%、90歳以上が25%を占め入退院を繰り返されます。入院後の状態悪化もあり在宅生活に戻れない方が見込みより多く、管理件数が大きく変動しました。

事業者の人手不足も深刻で実質的に短期入所の受け入れを停止している施設も多く、訪問介護は軽度者や家事援助など報酬単価の低い支援は引き受け手が無くなっています。通所介護は加算算定が増加し特に1日介護型の場合は食費の値上げもあり利用料負担が重くなりました。物価高騰が生活を圧迫する中で利用控えも発生しています。

ICT化促進のためケアプランデータ連携システムの活用を開始しましたが、利用している事業所がまだ少なく文書での報告が中心です。オンラインモニタリングも解禁されましたが主治医の同意等の条件もあり、高齢者自身が訪問での面談を望まれるため実施に至りませんでした。子世代の家族からはメールだけでなくSNS利用の要望が寄せられるようになってきました。単身者や困窮とまではいかずとも経済的に厳しい生活状況の方も増え、成年後見や生活保護申請など他制度の提案が必要な事例にも対応しています。

### (2) 企業委託型保育事業

泊まり保育5歳児2名、日・祝日保育は5名の利用がありました。年齢に応じた保育を計画し、異年齢でも楽しく遊ぶことができる工夫をしました。平日は認可保育園ですごしているの、無理のないように休息の時間を作り体が休めるようにしました。連絡帳やお便りでは写真を載せることでより様子がわかり安心していただくことができました。奈良県で開催の院内交流集会には、前年度担当者が運営準備にも参加し、今年度担当者と4名で学習するとともに、他の院内保育所の方と

交流することができました。

奈良市より企業委託保育も無認可園にあたるこのことで、認可外保育所の届け出を行いました。

### (3) 在宅型有料老人ホーム事業

重点目標の入居率の課題に関して、年度当初在籍9名でしたが6月に新規入居開始することができ、空室後の入居契約まで最短で進めることができました。また入居者の高齢化や介護サービス利用導入されている方などがおられる中、法人内入所施設への申し込みなど、ご本人やご家族の意向を確認しながら連携することができました。

自治会活動においては、困りごとや健康相談、設備環境など入居者が安心して、快適に過ごせるよう安否確認も含めた訪問を継続しました。設備環境の維持においては資金計画等継続課題です。

生活状況においては、猛暑により体調不良や引きこもり状態、転倒による骨折入院されるケースがありました。引き続き心身の状態観察を行い、必要な機関へつなげていきたいと考えます。

## 12. 地域における公益的な取組・活動等の状況

### (1) その他活動（実習生の受け入れなど）

受け入れ実習種別	学校・実施機関	期間	人数
介護実習	奈良歯科衛生士専門学校	5/27～5/31、6/3～6/7	8名
社会福祉士実習	関西福祉科学大学(60時間)	8/7～8/16	1名
	関西福祉科学大学(180時間)	8/16～9/27	1名